

22. 骨・関節感染症に対する高気圧酸素治療について

川島真人 田村裕昭 高尾勝浩
(医療法人玄真堂川島整形外科病院)

【目的】 Hamblen (1968) は、ラットに実験的骨髓炎を製作し、2.0～3.0ATA の HBO が炎症の治療に促進的に作用することを報告した。その後、Bingham, Mainous, Perrins らは臨床例にも HBO が有効であることを報告している。

我々も1981年以来、積極的に骨・関節感染症に対して HBO を施行し、その臨床的効果を検討してみた。

【方法】 1981年以来、当院に入院した骨・関節感染症患者、男72名、女34名に対して、HBO を施行した。年齢分布は10～19歳4例、20代12例、30代21例、40代14例、50代25例、60代19例、70歳以上11例であった。原因別には、血行性感染55例、外傷性感染40例、術後感染11例であった。部位別には、脛骨40例、大腿骨25例、顎骨8例、足根骨9例、前腕骨4例、骨盤4例、足趾4例、上腕骨3例、足関節3例、膝関節2例、腓骨2例、胸骨2例、その他であった。検出菌は、黄色ブドウ球菌17例、緑膿菌11例、表皮ブドウ球菌5例、結核菌5例、その他であった。HBO は、2.0ATA 下にて60分の酸素吸入を施行し、30回を1クールとした。

【結果】 治療終了後6ヵ月以上を経過した症例を対象に、良：再発もなく良く改善されたもの、可：わずかな炎症症状の残存があるも改善をみるもの、不可：再発したもの、の基準にて判定したところ、良42例、可60例、不可4例であった。

これらの症例中、局所持続洗浄を併用したものは、良51例、可5例、不可4例と極めて成績がよく、HBO を併用しつつ、局所持続洗浄した方が良好な結果が得られるものと考えられた。

23. 阻血肢に対する下肢切断後のガス形成菌感染症について

江上 純*¹⁾ 八木博司*¹⁾ 荒木貞夫*¹⁾
笠井道生*¹⁾ 岡留健一郎*²⁾ 杉町圭蔵*²⁾
(¹⁾福岡八木厚生会病院外科
(²⁾九州大学医学部第二外科)

ガス形成菌感染症は重症感染症の1つであるが、本邦では比較的稀な疾患と考えられている。本症が血行障碍或いは糖尿病合併例に発生する頻度は高く、これに *Clostridium* 所属の菌による感染とそうでないものがある。

私共は、これまで下肢血行障碍に合併した本症の8例を経験し、起炎菌の面からその内訳は *clostridial gas-forming infection* 2例、*non-clostridial gas-forming infection* 6例であった。

この中4例は罹患肢の切断後に発生したもので、*Clostridium* 及び *non-clostridium* 各2例であり、何れもデブリドマン、抗生物質、高気圧酸素療法(アムステルダム方式)にて、全例治癒退院させる事ができた。

無菌手術後の本症の発生は比較的稀であり、本症発生の要因について本報告において2, 3の考察を試みる。